

NPO 法人 ベーシックライフインフォメーション協会 会報第19号

新理事長に加藤美智子を選出

五月三十一日、令和二年度特定非営利活動法人ベーシックライフインフォメーション協会の定時総会が開かれ、新役員が次の通り（五十音順）選出された。任期は二年。

- | | | | | | |
|-----|-------|----|-------|----|-------|
| 理事長 | 加藤美智子 | 理事 | 田代 守 | 監事 | 岡村 悦子 |
| 理事 | 尹 世玲 | 理事 | 中村 和利 | 監事 | 郭 純 |
| 理事 | 銭 妙玲 | 理事 | 林 政明 | | |

平成二十二年から令和一年度まで十年間、理事長を務めた田代実範は退任した。

令和二年度の事業計画は左の通り決定した。

コロナ新型コロナウイルス感染症蔓延に伴う制約が多くあり、明確な計画は策定できないので大綱のみにとどめている。実施が可能になり計画が具体化したときに、ホームページ、会報でお知らせする予定である。

令和二年度 事業計画

事業の目的

① 本協会の製作のドキュメンタリー映画「空を拓く〜建築家・郭茂林という男〜」の上映を行う。日本語・英語・中国語字幕のDVDを貸し出し、協力団体、協力者の主催で国内および台湾での上映で多くひらかれるように努める。実施時期 年4回
実施場所 国内と台湾のホール等

一 オール台湾ツアーの開催

○映画上映会、音楽会または講演会
○協会のPR事業と台湾観光資料展示、台湾産品の提供
実施回数 年一回 実施時期 二年度後期
会場 ココネリ
対象 東京都及び近県居住者

対象 不特定多数

② 台湾と日本の相互理解と文化交流を目的として講演会等を実施し、都民と在日台湾人に参加を呼びかける。
③ 交流を希望する団体等の日台間の橋渡しを行い実現に努める。

二 ハイキングと台湾人戦没者慰霊碑参拝

実施時期 十一月
場所 東京都奥多摩町山中にある慰霊碑
対象 東京都・近県在住者

三 交流の橋渡し

日台の交流を希望する団体等との間の交流が促進するよう、協会が働きかけ実現に努める。
実施時期 通年 実施場所 協会事務所
対象 希望する団体

「空を拓く」DVD完成を記念してお世話になった法人等に寄贈しました

ドキュメンタリー映画「空を拓く〜建築家 郭茂林という男〜」の製作に際し制作費をご支援いただいた法人様、推薦文をお書きいただいた建築家様をはじめ出演の方々などにDVD完成を記念して贈呈しました。贈呈先の芳名は左のとおりです。

- 三井不動産株式会社
- 株式会社世界貿易センタービルディング
- 新日本空調株式会社
- 三機工業株式会社
- 鹿島建設株式会社
- 三井住友建設株式会社
- 多田美波研究所
- 日刊建設工業新聞社
- 昭和リーフ株式会社
- 中鹿宮造股份有限公司
- 台北駐日経済文化代表処
- 藤森照信
- 安藤忠雄



台北第一女子高級中学と お茶の水女子大学附属高等学校の国際交流報告

元お茶の水女子大学附属高等学校副校長 石井 朋子

NPO法人ベーシックライフインフォーメーション協会（以下ベーシックと略）より、台湾の台北第一女子高級中学校（以下北一女と略）がお茶の水女子大学附属高等学校（以下お茶高と略）との交流の希望をお持ちだという情報をいただいたのは、2006年の秋頃のことだったと記憶しています。はじめは突然のことで少々驚きましたが、このころ高等学校の教育にも国際化の視点が求められるようになり、実現に向けて検討すべき課題であるとの認識を持ちました。2007年12月には北一女の校長と教員2名、2009年11月には生徒20名が来日、来校し、交流の第一歩が手探りながらスタートしました。

2010年11月にはベーシックのご協力の下、石井が台北に北一女を訪問し、先生方や生徒と直接ふれあい、学校の様子を知ることができました。お茶高は生徒の自主・自律の精神を育てることを学校目標としたかなり自由な雰囲気のある学校であり、卒業後は社会の様々な分野での活躍を期待しています。北一女の生徒達は明るく元気で、積極

的によく勉強し、また学校の中の自由な雰囲気もお茶高と非常に近いものを肌で感じる事ができました。長く女子のリーダーの教育に貢献してきたという教育理念も両校に共通のものと感じることができ、大きな収穫でした。一つ心配があったのは、お茶高が全校生徒数360人と非常に小規模な学校であるのに対して、北一女は生徒数3000人の大規模校であることでした。この規模の違いで対等な交流ができるのだろうかという心配でした。

だいぶ時間がかかりましたが、2013年10月には初めて、お茶高の生徒22名をつれて台北に赴き、北一女では学校訪問・ホームステイを含む1泊2日の交流が実現しました。この訪問に際してもベーシックには多大なご協力を頂きました。何より良かったことは参加した生徒達がこの研修を通じて皆さんのことを学び、大きく成長できたことと実感できたことでした。これを契機にお茶高と北一女の交流および台湾研修旅行が定期的なものとなり、現在に至っています。

お茶高はその後2014年度より5

年間、文部科学省のスーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定を受け、高校生の国際化教育に取り組みしました。この指定を受ける契機になったのが2013年の台湾研修旅行でしたし、5年間のSGHの実際の取り組みの中心にあるものの一つがその後の台湾研修でもありました。また、2014年の訪問時には北一女と正式な学校間交流協定を結ぶこともできました。

現在お茶高は2019年度よりスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受け、研究を続行中ですが、ここでも国際交流は大きな課題の一つです。北一女との交流は今後も継続されてゆくことと思います。また、かつて研修旅行に参加した卒業生が、様々な場面で台湾や北一女の卒業生との交流を継続させていると聞いています。それもつれなくありがたいことです。以下にお茶高の台湾研修および北一女のお茶高訪問の一覧を上げます。台湾研修の4日間の日程のうち、北一女への訪問は1泊2日の北一女生徒の自宅でのホームステイを含みます。お茶高ホームページSGH活動報告に詳しい記事がありますので、ご覧いただけると幸いです。



2010年11月1日 第1回北一女訪問
お茶大附属高 石井副校長、玉川大 白柳教授
協会 加藤理事 他、生徒とともに



2009年11月北一女20名の
訪問を受けたお茶大附属高で



2006年秋 交流のスタート
協会 加藤理事 北一女中 周校長 お茶大附属高 石井副校長

お茶高台湾研修一覧

- ・2013年10月20日(日) ～ 24日(木)
生徒22名、教員2名
 - ・2014年10月22日(水) ～ 25日(土)
生徒29名、教員3名
 - ・2015年10月21日(水) ～ 24日(土)
生徒42名、教員6名
 - ・2016年10月19日(水) ～ 22日(土)
生徒30名、教員3名
 - ・2017年10月18日(水) ～ 21日(土)
生徒24名、教員3名
 - ・2018年10月17日(水) ～ 20日(土)
生徒31名、教員3名
 - ・2019年10月16日(水) ～ 19日(土)
生徒29名、教員6名
- 北一女日本研修・お茶高訪問一覧**
- ・2009年11月 生徒20名
 - ・2016年5月26日(水)
生徒44名、教員3名
 - ・2018年5月21日(月)
生徒36名、教員3名

また、交流の記念として、お茶高、北一女の両校にベシックがしだれ桜を植樹して下さったと聞いています。両校の交流が未永く継続することを願って、ベシックの長年にわたるお力添えに感謝申し上げます、交流報告と致します。

台湾のこと

上里 佑子

日清戦争が終わって祖父は単身で台湾へ行ったようだ。

日本の廃藩置県で沖縄には住めなくなったのだからと思う。それで台湾へ出稼ぎに行ったようだった。

私の母の兄弟、姉妹は戦前の台湾で生まれた。戦後、沖縄へと引き揚げて来て私が生まれた。

母にとって、第二の故郷である。母が初めて台湾へ帰った時は1963年ごろだったと思う。

そのころの教え子の一人にハガキを出していた。彼は日本語を読めない生徒だったそうだが、出していた。そして、母は屏東の駅へ着いた。教え子が数人と同僚の先生方が出迎えてくれた。戦後初めて見る日本人だったようだった。

郵便局へ務めていた別の教え子がハガキを発見して、連絡が良かったらしい。

彼は千葉大学へ留学して日本語も上手だった。最初にハガキを出した生徒はまだ来ていなくて、その後現れて、母は彼を見たときに死んだ父親を思い出してわっと泣き出したそう。

日本語も読めない書けない劣等生だった彼にどうしてと、皆不思議だったそうだが、引き上げるときに彼の家族が見送ってくれてとても良くしてくれた

ようだった。5年前に母の教え子の人たちが来沖してお会いした。母は69歳で他界したが、その教え子は80歳になっていた。

台湾は日清戦争が終わって日本の植民地になった。明治政府は台湾へ総督府を造り、帝国大学を建てたそして高等学校や鉄道、電力会社など台湾を充実させていった。戦後、日本人はずべて引き上げた。台湾人は日本のお蔭で近代的な生活が出来て良かったのではないかと思った。その証拠に8年前の東日本大震災のときに、台湾が義捐金を沢山集めて日本へ送った。アメリカが1番で、台湾は2番目だったときいた。

明治政府は台湾にはお金をかけたけど、沖縄には何もしてくれなかった。高等学校も造らなかつた。

那覇の国際通りという繁華街で台湾人が出資して、大きなホテルが建てられている。最近では中国、韓国、台湾からの観光客で溢れている。国際通りは外国人の観光客で溢れかえっている。

大型連休に娘家族は台湾への旅行を予定している。2年前に行ったときは動物園と遊園地へ行きましたと絵葉書をもたらした。台湾は沖縄から1時間で行ける一番近い外国である。

そのうちに、私もまた行きたいと思っている。

(会員)



北一女(旧台北市立第一高女)の正門



交流記念植樹の先生と生徒、協会役員



北一女で先生方とともに

台湾の想い出 岡村悦子

私の父は台湾人が最も愛する八田与一氏の事業に参加した日本人の一人でした。彼は台湾南部の烏山頭ダムを完成させ嘉南大州を巨大な穀草地帯に導いた偉大な日本人です。嘉南平原は水不足に悩んでいた農民たちがどんなに頑張っても生活は改善されずに困窮していました。そんな彼らの暮らしを一変させたのがダムの建設だったのです。

大正から昭和にかけて苦節十年をかけた八田氏の指導により若き日本人と現地人が叱咤激励され大変な苦勞の末に完成させたのが烏山頭ダム(水庫)でした。洪水、早魃、塩害が解消されて農民たちへの技術指導も実施され三年輪作農法により農民の栽培技術が向上して農民の生活は一変し嘉南平野は豊かな穀倉地帯に生まれ変わったのです。そして台湾は農産物で外貨を稼ぎ工業化を成し遂げ戦後の経済成長につなげました。

それから100年近く過ぎてても毎年5月8日の八田氏の命日には大勢の地元民の参加者による慰霊祭が行われています。銅像は地元民により存命中に建設されています。その建設工事の人たちの写真が古いアルバムに残っていて若き日の父の顔もありました。

その後、父が新竹州水道取入口に勤務した昭和5年に私は生まれたのです。新竹州の東方の田舎で門を入ると少し砂利

道があり正面は水道取入口の機械工場があり終日大きな音をたて休み無く機械が動いていました。父がその管理をして台湾人の従業員たちの指導をしていました。左側に事務所があり事務の職員部屋で机を並べて仕事をし、右側に駐在所があり何時も巡査のおまわりさんがいて私達子供に色々面白いお話をしてくれたこと憶えています。台湾人の子供とも仲良くして遊んでいました。工場の少し上に従業員の宿舎があり階段を上がると日本人の宿舎で私達の住まいでした。下の方にバナナの木があり実が黄色くなったら取って上げると言われて喜んで待ちました。

その下の方は川が流れていて大きな井戸がありました。その井戸の掃除をした時に大きな鰻がいたと頂いて母が料理して皆が美味しいと言って喜んでいたこともありました。幼稚園は父の自転車に乗せて貰い通園しました。小学校に上がる頃、西門町に引越しました。市の中心は東門町で大きな市場もあり東門城を中心に道路が幾通りにも別れ商店が並び賑やかな町並みでした。そこから西へ少し離れた所が西門町で裏通りに西門市場があり沢山の人で終日賑わってマソ様の廟もあり一日中お祈りの人が線香の煙をたてていました。表通りには師範学校と道路の向こう側に消防署や公会堂やグラウンドがあり家政女学校もあったようです。東門城の左の方は市役所、州役場、真ん中に警察派出所、ホテル、医院、理髪店など、右側は駅の方の商店街も賑やかで駅の前



生まれ故郷の新竹州東勢の水牛の群れ (1930年代)

に人力車が並んでいました。西門町の家から通学は4年生まで、友達と漢方薬の店のビン漬けの蛇や幼虫の見本を観察したりキャンディ屋の小父さんにアイスを貰って喜んだり、父の知り合いだったようです。寄り道ばかりして遊んでいました。五年生になると東勢町へ引越しました。

竹東方面へ行く大きな道路を挟んで左は日本人の住宅ばかりで女学校の寄宿舎や先生方の宿舎や多くの社宅ばかりありました。右側に木材所や田んぼや畑があり、その中に4軒の住宅の一つが私達の家で水道は井戸でポンプで水を汲み上げていました。畑の向こうにレンガ工場があり赤レンガを製造していました。上に広い野原があり子供達が野球をしたりいろいろなスポーツを楽しんでいました。隣にプールもあり大きい大人用のプールと子供用の浅いプールでは子供たちと親が楽しそうに遊んでいました。少し行くと大



新竹高女在三同期会 平成13年4月10日 於：ハウステンボス

きな池がありボートやキンタイ釣りの子供たちが遊んでいました。森林公園があり、その先の赤土崎の山の方に新竹中学校がありました。

戦争が始まって新竹に大きな飛行場が出来て兵隊さんを民間でお世話することになり、休みの日には2人來られて一緒に遊びました。そして訓練で私の家の上を飛ぶ時は手を振るからと冗談を言っていました。その方たちは鹿児島に移動して特攻隊になったとか子供心にも悲しくて涙が出ました。女学校二年の時、父が台中州沙鹿の花王石鹸会社に就職して、私は台中高女へ転校しました。台中高女は白い壁の二階建ての校舎で椰子の木が周りにあり、素敵なお庭でした。新竹の田舎から都会の台中へ嬉しくて雨の日の合羽は傘に制服はきちんとしたスタイルに

変えても中々友達が出来ず寂しい思いを
しました。新竹は風が強く雨の日は傘
がさせず皆が雨合羽を使用していたので
す。しかし、屋内プールがあり私は得意
になって泳ぎましたら何時の間にか人
者になり沢山の友達が出来て嬉しかった
こと。戦争が激しくなり女学校が陸軍司
令部となり、私達は近くの台湾人の子供
の公学校に移転しました。汚れた教室の
床や壁をきれいに勉強しました。夏休
みになり空襲警報が激しく出るようにな
り沙鹿の工場にも爆弾が落とされ大きな
穴が出来て防空壕の蓋が飛ばされ恐ろし
い経験もしました。

終戦になり、日本人の内地への引き揚げ
が始まりましたが父が台湾の方に頼まれ
て化学薬品工場に勤めるようになり残留
することになりました。そして新竹州の竹
東に近い山の麓に新しく建設された工場
と住宅がある処に住むようになり再び私
は新竹高女に転校したのです。新竹はひど
い爆撃を受けて町も女学校も瓦礫の山で
プールも泥に埋まり新竹駅も半分は崩れ
てきれいな町並みも商店街もすっかり壊
れて震災の跡のようになっていました。

女学校は一学年に一つの部屋だけの
教室で中国から来られた校長先生と国語
の先生で英語は日本の大学を出られた若
いきれいな支那服の似合う女の先生とハ
ンサムな男の先生が授業をしてしてくれま
した。たった一人の日本人の私でしたが北
京語を判り易く教えて下さり、映画館に
も連れて行って貰い何とか喋れるように

なって嬉しくて、でも発音が難しくて凄
く勉強したのを憶えています。

秋になると町が不穏になり日本人に唾
を吹きかけたり大声の罵声をかける台湾
人が多くなり危険を感じるようになりま
した。私達も妹や弟が幼いので引き揚げ
ることになりました。最後の引き揚げ船
は台湾の貨物船で私達は船底に藁を敷い
ての船旅でした。台湾人の知り合いがア
ヒルの湯で卵を沢山持ってきて日本は食
糧がないからと心配してくれたのでした。
本当に私は台湾に生まれ育って恵まれま
した。気候も良いし、果物もおいしくて
何の不自由も無く生活が出来て有難い幼
年時代だったと思います。日本統治下だっ
たからですが台湾とは何時までも私の心
に良い印象だけが残っています。(会員)

台湾親善交流犬「小江」

高雄市政府消防局で活躍した台湾親善
交流犬「小江」は元気に暮らしています。
2016年協会所属の災害救助犬「小
江」が台湾に親善交流の一環として渡台
したことは会報第10号とホームページで
お知らせしました。

「小江」は高雄市政府消防局捜救犬訓
練中心で主に局に来られた住民の方の愛
される犬として活躍してきましたが、高
齢になり先ほど訓練中心を退任しました。
この間4年にわたり消防局隊員、地域住
民の皆様にかわいがられ友好親善犬とし
て役割を果たしてきました。時には愛ら

しい日本犬としてTVにも出演したとの
ことです。

現在は民間の愛犬家の手で大事に飼わ
れ、TVのプログラムも用意されている
ようです。

協会は将来日本への帰還を希望してい
ます。老後を生まれ故郷の日本で過ごさ
せるよう計りたいと考えています。

今まで「小江」を愛し大事に育ててこ
られ訓練に力を尽くしてくださった捜救
犬訓練中心の皆様と今の飼主に心からの
感謝を表します。



2016年5月5日 高雄市政府消防局
陳虹龍局長と面談する加藤理事



「小江」JKCの災害
救助犬 A 受賞の頃



飼い主ご家族と友人らが
「小江」を連れた食事会



飼い主と「小江」土手で元気に遊ぶ



訓練中心のゴー



映画「空を拓く 建築家・郭茂林という男」上映の記録

| 月日 | 地点 | イベント名称または内容 | 主催者等 |
|---------------------------|----------------------------------|--|--------------------------------------|
| ■ 2012年 平成24年 | | | |
| 10月24日 | 東京 COREDO室町 日本橋三井ホール | 「第25回東京国際映画祭」(TIFF) | 公益財団法人ユニジャパン 東京国際映画祭実行委員会 |
| 10月31日 | 東京 霞が関ビル プラザホール | 完成披露 試写会 | 当協会 協力：三井不動産(株) |
| ■ 2013年 平成25年 | | | |
| 2月2日～3月15日 | 東京 渋谷ユーロスペース 2 | 商業上映 | ユーロスペース |
| 4月15～26日 | 東京 アップリンク | 商業上映 | アップリンク |
| 5月18～31日 | 大阪 第七藝術劇場 | 商業上映 | 第七藝術劇場 |
| ■ 2014年 平成26年 | | | |
| 1月31日 | 東京 学士会館 | 新年賀詞交歓会 会員上映会 | 建物診断設計事業協同組合(建診協) |
| 2月15日 | 京都 ブライトンホテル | 新年賀詞交歓会 会員上映会 | 建物診断設計事業協同組合(建診協) |
| 4月10日 | 東京 台北駐日経済文化代表處 | 代表鑑賞会 | 台北駐日経済文化代表處 |
| 5月25日 | 沖縄 琉球新報ホール | 上映会 | 八重山台湾親善交流協会沖縄支部 |
| 7月4日 | 台湾 台北 国賓大飯店 | 会員月例会 | 台北市日本工商会 協力：中鹿營造公司(台湾鹿島) |
| 9月12日 | 福岡 ユナイテッドシネマ チャンネルシティ13 | 「アジアフォーカス・福岡国際映画祭2014」 「台湾映画祭2014」 | 福岡市、福岡国際映画祭実行委員会、 台湾映画祭上映実行委員会 |
| 10月17日 | 鹿児島 ガーデنزシネマ | 「建築CINEMA映画祭2014」 | 社団法人日本建築家協会九州支部 鹿児島会 |
| 11月1日 | 新潟 長岡 アオーレ長岡シアター | 「長岡アジア映画祭'14」 | 長岡アジア映画祭実行委員会 |
| ■ 2015年 平成27年 | | | |
| 4月2日 | 台湾 台北 国立台北科技大学 国際ホール | 上映会(学生・一般) | 国立台北科技大学(郭茂林の母校) |
| 7月24日 | 東京 KMG建築事務所 | 会員上映会 | 当協会 |
| 9月16日 | 東京 文化学園大学 | 学生上映会 | 文化学園大学造形学部 |
| 9月17日 | 東京 台北駐日経済文化 代表處 台湾文化センター | 上映会 同時開催 1. 講談 郭茂林 一龍斎 貞花 2. 郭茂林展示(17～30日) | 台北駐日経済文化代表處 台湾文化センター |
| 10月28日 | 台湾 台北 玉蘭荘 | 会員上映会 | 社) 台北市松年福祉会玉蘭荘 (日本語高齢者ダイケアセンター) |
| 11月11日 | 台湾 台北 国際日語教会 | 会員上映会 | 台湾キリスト長老会国際日語教会 |
| 12月15日 | 東京 お茶の水女子大学付属高校 | 生徒上映会 | お茶の水女子大学付属高等学校 |
| ■ 2016年 平成28年 | | | |
| 9月17日 | 茨城 つくばBiViつくば 総合インフォメーションセンター | 筑波大学 「台湾文化ウィーク」 | 国立筑波大学 |
| 11月24日 | 東京 練馬ココネリホール | 「オール台湾デー」 | 当協会 |
| ■ 2017年 平成29年 | | | |
| 2月13日 | 横浜 田奈プラザ | 地域住民上映会 | 五七青葉会 |
| 5月3日 | 東京 当協会 | 会員上映会 | 当協会 |
| 10月21日 | 東京 練馬ココネリホール | 「オール台湾デー」 上映 | 当協会 |
| ■ 2018年 平成30年 | | | |
| 3月22日 | 東京 練馬ココネリ会議室 | 公開上映会 | 当協会 |
| (4月12日) | (霞が関ビルディング竣工50周年) | | |
| 6月8日 | 東京 練馬ココネリ会議室 | 公開上映会 | 当協会 |
| 7月10日 | 東京 | 車内上映 | ロボット・IoT・AIの活用によるものづくり産業訪日団 |
| 7月29日 | 台湾 | CATV全国放映 | 公共テレビ PTS 3 チャンネル 財) 公共テレビ文化事業基金會 |
| 8月1日 | 東京 | 車内上映 | 台日経済・産業・技術政策交流研究団 |
| 10月7日 | 東京 練馬ココネリホール | 「オール台湾デー」 上映 同時開催：講演 「超高層ビルの誕生とその歴史的意義」大沢明彦 | 当協会 |
| ■ 2019年 平成31年・令和元年 | | | |
| 2月21日 | 東京 練馬ココネリホール | 公開上映会 | 当協会 |
| 7月23日 | 東京 当協会 | 会員上映会 | 当協会 |
| 10月13日 | 東京 練馬ココネリホール | 「オール台湾デー」 上映 | 当協会 |
| ■ 2020年 令和2年 | | | |
| 2月29日 | 東京 練馬ココネリ イベントコーナー | 公開上映会 | 当協会 |

特定非営利活動法人 ベーシックライフインフォメーション協会 郭茂林ドキュメンタリー映画製作実行委員会



国立台北科技大学国際ホールで



「空を拓く」のロードショーオープン時の会場

映画紹介

「男の子は夢があるから成長していくんだ……」

新幹線開通・オリンピック開催の相次いだ1960年代高度経済成長期。そんな夢と勢いに満ちた時代の1968年、31mだった高さ制限を突破して完成した日本最初の超高層 霞が関ビルは、画期的な技術革新をもたらし、都市の在り方を根本的に変革した。だが日本の成長に一役買ったこのプロジェクトの推進役に台湾出身の建築家 郭茂林がいたことを知るものは少ない。

台湾で日本統治下時代の教育を受けた一青年が母の手を振りきって本土に渡り、研究室での永い雌伏を経て巡りあったチャンスに花拓く。建築界の精鋭の力を結集し、数々の難関を乗り越えて、一大事業を成功へと導いたのである。浜松町の世界貿易センタービル、池袋のサンシャイン60等と、日本を代表する超高層ビルを次々と手がけて高さの記録更新を続ける郭の活躍の場は、ビル単体にとどまらず、超高層ビル群が立ち並ぶ新宿副都心開発のまとめ役ともなった。

台湾を旅したことがある人なら一度は目にする、台北駅前の新光三越ビルも郭の後年の作品である。同郷の政治家 李登輝（初代台湾人総統）と共に尽力した台北の副都心は、今では台湾随一の行政・経済・文化・商業の中心になっている。

「僕ひとりでは何もできない。みんなの力を合わせただけ……」

淡々と語る郭が、なぜ「人の和」を生みその潜在力を出すことができたのか。郭は2010年秋90歳を目前にして、故郷への旅にでた。青春時代過ごした台湾で何を振り返り、母校の若者たちに何を伝えるのだろうか。

戦前戦後の時代の変動にもまれながら、変わらぬ夢を追い仲間を信じることで、国籍を問わずだれからも愛された、郭茂林の人生と人となりを追う。

特定非営利活動法人ベーシックライフインフォメーション協会
郭茂林ドキュメンタリー映画製作実行委員会



福島県玉川村と共に

福島県の玉川村を訪ねました。
6月上旬、協会の一部の役員と希望者が
自費で福島県の玉川村を訪問、農産品生産
の状況や村おこしに努めておられる様子を
見学しました。玉川村は1988年日本で

4番目に台湾南投県鹿谷郷と姉妹提
携をしています。それ以来、台湾と
交流を積み重ねてきているとのこと
です。協会のオール台湾デーなどに
「道の駅」が参加して積極的に活動、
互助交流を期待しています。福島空
港は玉川村にあります。



協会付近の初夏の景色



協会事務所へどうぞ

協会の事務所をお訪ねくだ
さい。歓迎します。
台湾のこと、ボランテニア
活動のこと、協会への提言、
意見交換など気軽に話し合
いませんか。電話でお出でにな
る日時を相談して、いい人間
関係を作りましょう。
電話 03(3996)0177

協会

ドキュメンタリー映画申し込み

ドキュメンタリー映画「空を拓く〜建築家・
郭茂林という男〜」をご都合のいい日に上映
します。どうぞお申込みご鑑賞ください。
上映対象 団体、グループ、家族で参加人数
5以上10名以内で協会会員の紹介
のある方。

上映日時 ご希望の日をもとに両者調整し
て決めます。
上映場所 協会事務所
上映時間 85分
上映素材 DVDを投影機でスクリーンに
映写します。
上映費用 無料。会場までの往復は各自で。
年間上映予定 2か月に1回の予定。

構成員名簿

令和2年5月31日現在

| | | |
|-------|--------|---------|
| 尹 世玲 | 田代 守 | 松本里代子 |
| 尹 世琇 | 田代 實範 | 林 銀 |
| 上里 佑子 | 鳥羽 展維 | 三浦 晃 |
| 江波戸つぎ | 豊川 玉蘭 | 山本 幸廣 |
| 岡村 悦子 | 中村 和利 | 頼 玉珍 |
| 加糖美智子 | ◎仲里 建良 | ◎印は賛助会員 |
| 郭 純 | 林 政明 | |
| 児玉 治 | 畠中 治憲 | |
| 小林 文 | 張本 晃次 | |
| 銭 妙玲 | 松山 達郎 | |

協会ホームページの案内

ホームページ <http://bla.jp>
Facebook <https://www.facebook.com/bliasoc>

特定非営利活動法人
ベシックライフインフォメーション協会

会報第19号

発行日 令和二年六月三十日
発行所 東京都練馬区石神井町六一二―三
電話 〇三―三九九六―〇一七七
発行人 ベシックライフインフォメーション協会